

GREEN RADER

全農長野県本部情報
／グリーンレーダー

2023 VOL.529

06



A-Policy【重点事業方針】

生産振興部の取組み

生活部 燃料・ホームエネルギー課の取組み

中期事業計画(令和4～6年度)行動計画の進捗状況について 03～05

A-Reports

- ・第10回全日本ブラックアンドホワイトショウ並びに
2023セントラルジャパン ホルスタインショウ 06
- ・京都食肉市場(株)にて「第35回信州和牛枝肉共励会」開催 07
- ・小平奈緒さんの講演会を開催 07
- ・長門牧場で酪農理解醸成活動を実施 08
- ・県スポーツ協会に長野米などを寄贈 08

- ・新採用職員紹介 09
- ・JA全農長野の事業現況 10
- ・今月のおすすめレシピ 10
- ・6月のラジオ番組表 10
- ・編集後記 10



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

生産振興部

生産振興部の取組み

J A全農長野生産振興部は、野菜・果樹の生産振興や、優良種苗の安定供給、営農技術員の指導体制の強化、安全安心な農産物の生産体制、技術情報誌の発行など生産現場を軸に事業展開を行っています。

■生産振興（野菜）

令和4年度は果菜類の生産振興として、ピーマンの単収向上と生産拡大を目的に、簡易雨よけハウスによる長野県普及モデル圃を設置し、施設化、栽培技術、品種選定の実証を行いました。また、アスパラガスの生産拡大のため、新たな栽培技術を確認するべく実証圃を設置しました。

近年の異常気象や園芸作物の安定生産、水田転作のための排水対策として、農機レンタル事業と連携しカットドレーン、カットブレイカーの実演、実証を県下各地で行いました。

令和5年度はピーマン、アスパラガス、ミニトマト、キュウリの生産安定に向けた施設化等の実証を行い、実証

結果による栽培技術の普及を進めることで生産出荷量の拡大を目指して参ります。



ピーマン簡易雨よけハウス



ピーマン簡易雨よけハウスでの実習

■生産振興（果樹）

りんごの高密植わい化栽培の普及拡大に向け、剪定講習会やりんご高密植栽培研究会を開催し、栽培安定に向けた技術指導を進めています。

また、災害等に強い施設化として、県内4ヶ所にコンクリートトレリスのモデル圃を設置しました。令和5年度はコンクリートトレリスの普及推進に向けて、コスト低減策の検討のほか、部材調達やトレリス設置手法の検討を行って参ります。

■優良種苗の安定生産

野菜種苗センターでは、高品質苗の

生産を行うため、生産工程管理の徹底を図っています。

また、りんご苗木事業では、J A出資法人に生産委託し、フエザー苗木等の生産拡大を図り、令和4年度は52,000本を県下J Aに供給しました。令和5年度は58,000本のフエザー苗の生産供給を目指しています。

■生産振興および営農技術員の指導体制強化に向けたシステム開発

「農業生産管理支援プラットフォーム」において、生産者の反収向上および営農技術員の指導力向上を目的に、「圃場カルテシステム」の開発を進め

圃場カルテシステム（アスパラガス）の入力画面

ています。

圃場カルテシステムは圃場毎の栽培・生育情報、作業情報を一元的に集約することで、「圃場カルテ」を作成し、当年度の栽培結果を振り返り、次年度の栽培に反映させることを目的としています。令和4年度は県内J Aと連携し、アスパラガスでシステム開発・実証を行いました。

今後、県内J Aへの提案および普及を進めていきます。

■安全安心な農産物の供給体制の推進

J A長野県グループでは、生産者の農薬適正使用の検証と農産物の安全安心体制を向上することを目的に、年間1,700検体の残留農薬自主検査を行っています。

また、農林水産省「農業生産工程管理（GAP）」の共通基盤に関するガイドライン」に完全準拠した「長野県GAP基準」「長野県適正農業規範」の取り組みを進めているほか、第三者認証GAPの取得を目指す産地への取得支援も行っています。

生産振興部では生産振興、新たな栽培技術や施設化、生産拡大を目的としたシステム開発をJ Aと一体となつて取り組んで参ります。

燃料・ホーム
エネルギー課

生活部 燃料・ホームエネルギー課の取り組み 「JAエネポータル」利用者様向け「JAうちエネポータル」について

JA全農長野燃料・ホームエネルギー課ではLPガス・配達燃料油・JAでんき利用者向けのポータルサイト「JAうちエネポータル」を運営しています。

JAうちエネポータルでは、LPガス・配達燃料油・JAでんきといったご家庭における全てのエネルギーのご利用状況をご確認いただけます。また、2023年6月より配達燃料油の発注機能を備えることにより、時間を気にすることなく配達燃料油を注文することができるよう、ご利用者様への利便性向上を図って参ります。

また、JAうちエネポータルでは、さまざまなキャンペーンを実施しています。

1つ目は「早期ご登録キャンペーン」です。2023年3月末までは抽選形式で実施していましたが、4月以降はご登録いただいた方全員に1,000円分のQUOカードをプレゼントする内容に変更しました。なお、2023年3月以前にご登録いただき抽選に漏

れた方にもプレゼントしておりますのでご安心ください。

2つ目は「謝恩キャンペーン」です。こちらはJAうちエネポータルご利用者様向けの

キャンペーンを実施して参りますので、ぜひこの機会にご登録いただき、ご利用をお願いいたします。

【登録方法】

- ①ガスの検針票または灯油の納品書をご用意ください。
- ②チラシのQRコードをスマートフォンにて読み取り、ホームページの手順にならってご登録ください。

LPガス・配達燃料油・JAでんきの料金やお得な情報をいつでも確認いただけます！！

「JAうちエネポータル」OPEN!!

便利なメニュー

ご利用明細

JAでご利用いただいた月々の燃料代の使用量やご利用料金をご確認いただけます。

お得情報

JAで実施するキャンペーンや展示会等のお得な情報を配信いたします。

ご注文

普段ご利用いただいている配達燃料油等がうちエネポータルよりご注文いただけます。

設備保安情報

ガスで実施させていただく点検の予定時期やお客様がご使用中のガス機器の情報を掲載いたします。

スマートフォンからの
アクセスはこちら



※画像はイメージです。
※『@ja-uchiene.nn.zennoh.or.jp』からのメールを受信できるよう、ドメイン設定の解除をお願いします。
※パソコンで閲覧する際のブラウザは『Microsoft Edge』あるいは『Google Chrome』にてお願いします。
※まれにご利用出来ない端末がございます。

早期ご登録キャンペーン

2024年3月末までにご登録されたお客様全員に

1,000円分のクオカードプレゼント

※予告なく終了させていただく場合がございます。

キャンペーンの
詳細はこちら



JAうちエネポータルのチラシ

中期事業計画（令和4～6年度） 行動計画の進捗状況について

全農長野県本部は、中期事業計画の実践によりJA支援に取り組むとともに、JAおよび子会社とともに農業所得の増大と地域の活性化に取り組んでいます。

I. 【中期事業計画における基本目標】 令和5年3月末総括

その1 ▶ 持続的な農業生産量確保による農業生産量の維持拡大

- (1) マーケットニーズを踏まえ、地域実態・担い手ニーズに対応した生産提案と生産拡大に取り組むとともに、技術専門知識のある職員の配置や研修の充実により営農指導支援体制の強化につとめました。
- (2) 気象変動に対応した生産安定化対策と災害急避対策として施設化を推進しました。また、労働力不足や生産性向上等課題解決に向けスマート農業・農業DX化の導入をすすめました。

その2 ▶ 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化

- (1) 重点卸売会社・実需者に向けた総合品目供給による本県の長期売り場の拡充、付加価値販売・商品の強化や積極的な加工商品開発、独自色のあるeコマース事業の強化等により販売力強化に取り組みました。
- (2) 包材や肥料のコスト抑制、農機低価格モデル共同購入や県域推奨型式の重点購買に取り組むとともに、農業生産用燃料支援対策の実施により生産コストの圧縮をはかりました。

その3 ▶ JA経済事業の収支改善と活気ある地域社会づくり

- (1) 燃料次期事業体制の検討をすすめるとともに、系統結集による石油取扱数量の確保やSS競争力の強化、宅配事業における戸配送効率化やお届け手数料の見直しに取り組む収支改善をはかりました。
- (2) 石油・LPGガス・ホームエネルギー・宅配事業の収支改善と体制強化による地域ライフライン維持を通じて組合員満足度を高め、活気ある地域社会づくりに取り組みました。

II. 【中期事業計画における新たな取り組み】 令和5年3月末総括

その1 ▶ 担い手推進センターの取り組み

- (1) 生産振興提案・購買事業の利用拡大・系統集荷量の拡大を目的に、JAと連携し地域の担い手への推進を行い、担い手のニーズや課題の把握を行いました。
- (2) 担い手からの要望や課題に対しては、各事業所と本所3部門で共有、協議するとともに、解決案等の具体的提案を行いました。
- (3) 3月末での担い手訪問回数の累計は239回で、訪問した担い手軒数は93軒となっています。

その2 ▶ 農業生産管理支援プラットフォームの進捗状況

- (1) プロジェクト検討チームを設け、営農および生産振興事業に関わるDX化に取り組みました。関係JAや中央会との協議に基づきシステム概要を整理のうえ、機能別に開発をすすめました。
- (2) DX化による付加価値のある新たなサービスの提供につとめました。情報発信システム（11月）、米穀出荷管理システム（2月）、土壌診断システム（3月）の運用を開始しました。

III. 各事業別 令和5年3月末進捗状況結果および次期事業計画へのすすめ方

【生産振興部】

実行具体策	4年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすすめ方
-------	-------	------	---------------

1. 産地基盤維持に向けた生産振興の推進

(1) マーケットニーズ、担い手ニーズに応じた生産提案	JA別メニュー設定・実施	施設化や栽培技術の提案	果菜類等の栽培技術提案や品種試験による実証圏を設置する。
(2) リング高密植栽培の普及拡大	450ha	450ha	栽培安定に向けた技術指導を継続実施する。栽培技術研究会や剪定講習会を定期的に開催する。
(3) JA生産法人と連携した実証圏設置や作業受託等地域振興への取り組み	2法人	ピーマン実証圏の設置1法人、アスパラガス試験圏の提案（1法人）	ピーマン簡易ハウスによる所得向上実証圏、アスパラガス枠板式高畝栽培実証圏の設置、栽培技術と施設化のパッケージ提案に向けた実証圏をJAと連携してすすめる。

2. 気象変動に対応した生産安定化対策と災害急避対策の推進

(1) リング高密植栽培用ハイブリッドトレリスと多目的ネットの普及拡大	普及推進 現地検討4カ所	現地指導の実施4回、多目的ネット7ha分導入確認	強度強化の現地指導を継続する。安価なハイブリッドトレリス実現のために海外製コンクリート支柱の検討を行う。
(2) 生産安定に向けた施設化推進	県下4事例 現地検討実施	アスパラガス（1事例）、ピーマン（2事例）の導入	ピーマンおよびキュウリのモデル圃場に向けた水平展開をはかる。
(3) 専用農機を活用した排水対策の実施	レンタル5JA 受託2事例	レンタル5JAで実施、受託実施に至らず	デモ実演を含め9JAで実演会実施。引き続き農業機械課レンタル事業を利用した排水対策を提案・実施する。また、新たな排水対策技術として、「平高畝成型機」の試験を行い排水性の効果を確認する。

3. スマート農業、農業DX化の促進

(1) 農業生産管理支援プラットフォームの開発導入	試験運用4JA	情報受発信システム、圃場カルテシシステムの開発	情報発信システムの開発が完了し、令和5年度よりシステム稼働開始となる。圃場カルテシシステムはアスパラガスで開発を行い、2JAで運用開始となる。今後、システム利用希望JAへの利用拡大をすすめる。
---------------------------	---------	-------------------------	--

4. 県本部種苗供給体制の強化

(1) 野菜種苗センターの優良苗供給拡大	205万本	153万本供給	高品質苗の生産を継続して行つため、生産工程管理を徹底する。
(2) リンゴフェザー苗の生産供給拡大（生産振興部生産本数）	5万本	5・2万本供給	歩留まり向上のための生育管理を継続し、フェザー苗生産量の拡大をはかる。

【生産販売部】

実行具体策

4年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 生産者手取り最大化に向けた販売力の強化

(1) 重点卸売会社、重点実需者に向けたJAと品目を横断した本県長期売場拡充	JAと品目の拡充	重点卸売会社取扱シェア74%（前年72%）	総合品目供給に向けて積極的な商談提案と売場確保をすめた。WEBも活用した意思疎通、連携強化をすめる。
(2) 業務・加工、輸出需要に対する多様な販売・流通手法による取り組み強化	① 新規開発5件 ② 輸出額18億円	① 野菜4件、きのこ9件 ② 22・8億円	① 野菜・レタス新規取引（カット野菜2件、中食1件、CVS1件） きのこ・カットぶなしめじ新規取引（外食7件、加工1件、中食1件） ② ショインマスカットを中心に拡大。円安も追い風となった。
(2) 輸出需要への対応			

2. 系統集荷販売力および収益力の向上

(1) 系統未利用、低利用の生産者等に向けたJAと連携した生産・販売提案	推進体制の設置 生産者のリスト化による推進開始	訪問件数93件	3部連携による事業推進。各地推進モデルを選定。
(2) コンセプトを明確にした青果物付加価値販売・商品の強化	付加価値販売開発5件	新規販売開発3件	菓子原料用夏秋イチゴ取引。果実コンポートリニューアル。伝統野菜セット。

3. デジタル技術活用による事業効率化

(1) JA業務と連動する販売・購買システム構築による情報活用	予約集計システム開発・購買システム要件確定	要件定義協議、関係団体との合意形成	出荷予定報告から予約管理、集荷、選果、検品、分荷、配車などを「青果物販売システム（仮）」により業務効率化し、データの利活用を行う。
---------------------------------	-----------------------	-------------------	---

4. 効率的かつ安定的な輸送体制の確立

(1) 継続できる安定輸送体制の実現 ① 遠隔地および東京・大阪・名古屋方面の輸送課題の改善	九州・中四国輸送モデルの導入と実証	九州地区向け中継輸送試験実施、輸送実態調査、情報連絡会実施	中継輸送にかかわる課題抽出。荷役時間短縮に向けた地区別、市場別課題を個別に対応した。
---	-------------------	-------------------------------	--

5. JA・県本部一体となった長野米集荷推進の実施と販売力強化

(1) 長野米の集荷および実需者販売の強化	72,000t	4年産米集荷67,839t	4年産米の長野県公表作況98。実需者への直接販売をすめ、新規取引先確保など4年産米集荷数量は全量結び付き済み。 事前契約の拡大など、実需者営業をさらに行い、5年産米の販売強化をすめる。
-----------------------	---------	---------------	---

【生産購買部】

実行具体策

4年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 包材のコスト抑制・需要の結集

(1) 低コスト組箱の普及拡大	40万箱	25万箱	リンゴ5kg・10kgオープン段ボールおよびぶどう、ブルーベリー、あんず段ボールの低コスト組箱化を実施。 今後、他JAへ拡大推進をはかる。
(2) 機能性の高い包材の導入・普及	4規格	6規格	白菜段ボールの野線割れ防止対策アーチカットを導入。 ぶどう、きのこの贈答用段ボールに美粧性の高い段ボールを導入。

2. 低コスト・省力資材の開発、普及

(1) 軽量肥料（15kg袋）の開発・普及	200t	580t	JA銘柄1銘柄が新規採用、肥料高騰対策としてL型肥料（低PK）が伸長し計画達成。
(2) BB肥料指定混合肥料の普及・拡大	累計3銘柄	1銘柄製品化	新製品の推進、新規銘柄の開発を行う。

3. 担い手への提案型推進

(1) わたしの肥料受注推進	4,800t	5,027t	畑作中心に拡大し計画達成。
(2) 担い手直送規格農業の普及拡大	4,800ha	5,767ha	新規水稲除草剤・園芸除草剤の受注拡大により計画達成。

4. システム構築・連携による業務効率化

(1) データ連携取引先拡大によるバーコード受入力率の向上	60%	64%	㈱Aコープ東日本の再稼働により計画達成。 取引先拡大に向け協議をすめる。
(2) 戸配管理システムのデータ連携	システム改修	10月26日稼働開始	データ連携拠点拡大を想定したシステム改修をすめる。

5. 農機コスト低減の取り組み

(1) 県域推奨型式設定による重点購買	累計10型式	累計10型式	ヤンマー22馬力トラクタが選定された。4台受注済（3月末時点）
(2) 中古農業機械の流通促進	サイト成約40台	3月末成約32台	中古機の玉不足により、8台未達となった。県本部買取の拡大をすめるとともに、JA保有機の掲載拡大により流通促進をはかる。（掲載別成約内訳：県本部22台、JA10台）

6. 県域整備事業の体制強化

(1) 中网信管内への県域整備拠点設置	設置準備	掘金設置	令和5年4月より、掘金整備センターが稼働した。JAからの受注促進をはかる。
---------------------	------	------	---------------------------------------

【畜産酪農部】

実行具体策		4年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 生産基盤の維持強化				
(1)肉牛（枝肉）の出荷頭数確保	6,700頭	6,552頭	JA・関連会社・販社と連携し、補完的生産事業による頭数維持をはかる。	
(2)肉豚（枝肉）の出荷頭数確保	59,000頭	60,699頭	JA・関連会社・販社と連携し、補完的生産事業による頭数維持をはかる。	
(3)生乳の出荷量確保	85,000t	83,743t	飼料高騰による酪農家戸数減、生産抑制政策の影響あり。県本部対策事業の活用による基盤維持をはかる。	
2. 信州産ブランドの強化				
(1)信州プレミアム牛肉の生産販売	2,500頭	2,332頭	令和3年対比で34頭の増加。取引先との協議による輸出も含め、有利販売につとめる。	
(2)銘柄豚の特色ある販売方式の維持	10銘柄継続	10銘柄継続	固定価格による生産・供給頭数の安定化をはかることで生産・販売一体となる基盤維持をはかる。	
(3)生乳のポジティブリスト制度に係る全戸巡回	240戸	231戸	県下全戸巡回を実施済み。（※廃業あり）	
3. 県本部生産農場の機能発揮				
(1)素子豚の安定供給	22,500頭	21,441頭	令和5年度は母豚の更新率を15%向上させ、出荷頭数の増加に向け、成績向上をはかる。	
(2)預託牛の受入頭数拡大	380頭	390頭	大口酪農家との継続的な取り組みによる頭数確保、牛房管理の向上により、受入頭数拡大をはかる。	
(3)生乳の出荷量確保	1,800t	1,439t	令和5年度は搾乳頭数増加および平均乳量の改善により、出荷量増加をはかる。	
4. 畜産酪農営農センターの機能強化				
(1)県本部生産農場での実習その他研修	2回／年	1回／年	三岳牧場での採卵・ET業務の実習について、継続実施する。	
5. 食肉処理施設の方向付け				
(1)長野県食肉施設検討会の協議	今後の方向付け	食肉施設検討会での検討	長野県農政部が事務局の検討会を決定機関とし、JAグループも参画する。	

【生活部】

実行具体策		4年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 県域会社によるSS事業経営受託の開始				
(1)JA合意形成と段階的な事業方式の移行	形成	事業方式の決定	ライフラインSS協同経営方式を令和6年4月より開始することを決定した（現行の協同経営SSは基幹SSとして継続。今後は協同経営加盟JAと協議の上、加盟SSを決定していく。	
2. 石油取扱数量の確保				
(1)系統結集数量を背景にした仕入強化	290,700kℓ	263,449kℓ	県統一の特別対策の実施等により系統結集をはかった。顧客固定化ではENEOSカード発券・ENEkey発行の継続的な推進とSSアプリの登録促進に取り組む。	
(2)キャッシュレス・Web化対応による顧客固定化	（協経含む）	（協経含む）		
3. SS協同経営販売数量の確保				
(1)SS独自キャンペーンによる来店促進	66,000kℓ	64,022kℓ	QR値引きクーポンの発行およびLINE会員へのクーポン配信による来店促進を実施した。また4JA15SSでA・コアとの連携企画を展開した。今後は他事業との連携拡大により販売数量確保をはかる。	
(2)JA事業と連携した供給促進の展開				
4. ガス取扱数量の確保				
(1)JA別マスタープラン実践による小売事業強化	17,000t	16,117t	各JAとマスタープランの進捗状況と課題協議を実施した。今後も小売事業強化に向けて行動計画達成率向上をはかる。また顧客接点強化のためベシックサービスを12JAで展開しており、顧客防衛の為に継続実施する。	
(2)顧客防衛に向けた体制整備と接点強化				
5. ホームエネルギー推進体制の確立				
(1)JAでんき取扱いの拡大	低圧供給	低圧供給	新規取扱開始2JAを含め県下9JAにてJAでんきの取扱いを展開した。今後もセット割引や新規契約者特典により契約戸数拡大をすすめる。	
(2)灯油・LPガス・電気のセット割の導入	累計4,000戸	累計1,686戸		
6. 自動車取扱台数の確保				
(1)営農車の台数確保と電動車の取扱拡大	2,750台	2,393台	営農車は買取購買・即納により台数が伸長、今後も継続的に推進する。電動車は全国的な納車遅延の影響を受け台数実績は低迷したが、補助金を活用し台数の伸長をはかる。	
7. eコマース事業の拡大				
(1)取扱商品の拡充とJAと連携したPR強化による登録会員の拡大	600商品 1,500会員	延べ885商品 1,520会員	JA独自品や青果物等の取扱拡大とエコーマーク品での粗品プレゼントキャンペーンを行い、利用促進をはかった。今後も各種イベントおよびJA女性部研修会等での推進により会員供給拡大をはかる。	

第10回全日本ブラックアンドホワイトシヨウ並びに 2023セントラルジャパンホルスタインシヨウ ～長野県から11頭が出場～

4月14日(金)と15日(土)の両日、静岡県御殿場市馬術・スポーツセンターで「第10回全日本ブラックアンドホワイトシヨウ並びに2023セントラルジャパンホルスタインシヨウ」(主催/全国ホルスタイン改良協議会、セントラ



審査の様子

ルジャパンホルスタイン改良協議会)が開催されました。このシヨウは、全国各地の酪農家の代表牛が一堂に集まる、乳牛の国内最大級の大会です。ホルスタイン種の体型、資質の改良水準を比較・検討して今後の改良と酪農業の更なる発展に寄与するとともに、酪農家相互の親睦・交流を図ることを目的として、4～5年に一度開催されています。

今年は、全国から未經産牛(出産経験のない牛)97頭、経産牛(出産経験のある牛)85頭の合計182頭が集まり、月齢・年齢毎に第1部～12部に分けて審査が行われました。部門により出場頭数は異なり、多い部では一度に20頭ほどの牛が審査場内を引かれ、骨格や体型などの比較がされました。

長野県からは、3月21日(火)に開催した「第49回長野県ブラックアンドホワイトシヨウ」にて選考された代表牛11頭が出場しました。出品農家は、シヨウ本番の前日から現地入りし、昼夜を

問わず本番の直前までミリ単位の毛刈りやブラッシング、艶出しなど牛の調整を行い、万全の状態で審査に臨みました。

1日目の未經産の部には、長野県から第1部1頭、第2部2頭、第5部1頭が出場しました。審査の結果、第2部(未經産ジュニアクラス、月年齢12月以上く15月未満)に出場した小林希綱さん(上伊那クラブ)のジャグロブリツジ ハンコック サリーが、リザーブチャンピオン(2位)に

選ばれました(Ⅱ表紙左上)。

2日目の経産の部には、第6部1頭、第7部1頭、第8部2頭、第10部2頭、第12部1頭が出場しました。審査の結果、第12部(高能力牛、生涯乳量4万kg以上)に出場した新海益二郎さん(野辺山クラブ)のラツキーマーシユ マオマオナギーが、リザーブチャンピオン(2位)に選ばれました。

また、全ての部をとおして、牛を引く人の技術を競う「リードマンコンテスト(一般レディースの部)」が行われ、新海益美さん(野辺山クラブ)がベストリードマン(1位)に選ばれました。

長野県代表牛の多くが上位入賞を果たし、農家の皆さんの日々の努力が表れる結果となりました。また、酪農情勢が厳しい中でのシヨウへの参加は、全国の酪農家との貴重な情報交換の場となり、酪農の発展にとっても有意義な大会となりました。

今後も畜産酪農課は、酪農家の交流を深め、乳牛の改良・生産の一助となるよう努めて参ります。



褒章授与

京都食肉市場(株)にて 「第35回信州和牛枝肉共励会」開催

JA全農長野は4月17日(月)、京都食肉市場(株)で「第35回信州和牛枝肉共励会」を開催しました。

長野県内各地から選りすぐりの信州和牛36頭が上場され、セリ販売に先立ち行われた枝肉審査で、JA信州うえだの(有)小田切牧場の去勢牛が最優秀賞に選ばれました。この入賞牛は口ース芯面積93cm²、霜降り度合いを示すBMSナンバーは最高値の

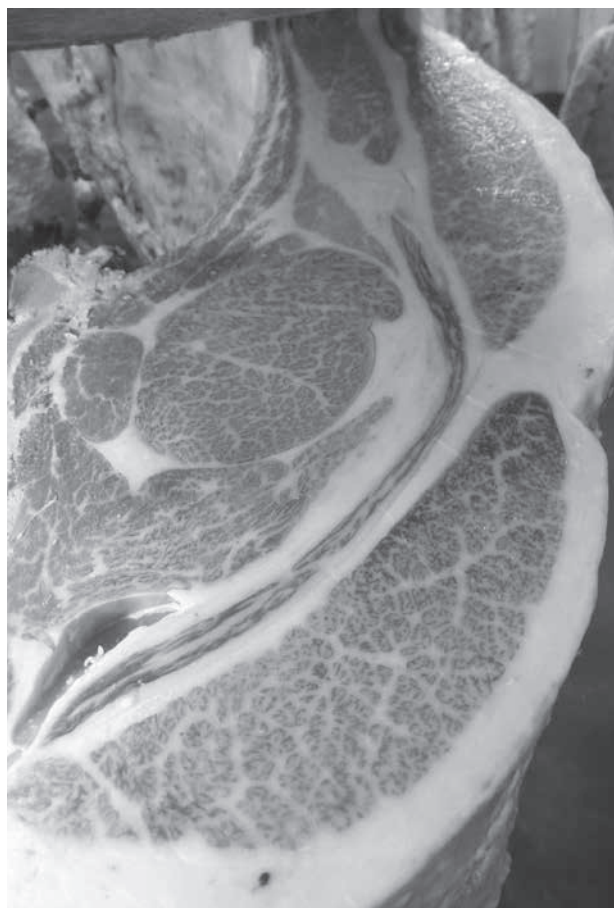
No.12で、京都食肉市場(株)が独自に定める「京都食肉市場特選牛」に認定され、さらにオレイン酸値54・8%で長野県知事が認定する「信州プレミアム牛肉」にも認定されました。

京都食肉市場(株)の購買者には小売店や専門店が多く、品質の良い枝肉は需要が高く、購買層も多いため、注目の集まる最優秀賞となりました。セリでは枝肉の評価を反映し、3、

802円/kgで落札され、京都市の「京都食肉販売(株)」様が購買されました。

上場された36頭中33頭が信州プレミアム牛肉に認定され、入賞牛のうち5頭のうち4頭が「京都食肉市場特選牛」に認定されるともレベルの高い共励会となりました。

このような共励会をとおして今後も畜産酪農課は、さらに「信州和牛」「信州プレミアム牛肉」および「信州アルプス牛」の認知度向上を図ると同時に、長野県内を中心に牛肉の消費拡大に向けた販売促進に取り組んで参ります。



最優秀賞を受賞した(有)小田切牧場の枝肉

入賞者一覧(敬称略)

賞	JA名	生産者	品種・性別
最優秀賞	信州うえだ	(有)小田切牧場	黒毛和種・去勢
優秀賞	みなみ信州	(株)夢ファーム高森農場	黒毛和種・去勢
〃	長野ハケ岳	津金 武幸	黒毛和種・去勢
優良賞	松本ハイランド	百瀬 圭太郎	黒毛和種・去勢
〃	松本ハイランド	(有)高原牧場	黒毛和種・去勢

小平奈緒さんの 講演会を開催

JA全農長野は4月26日(水)、職員向けの研修として小平奈緒さんの講演会「人となつながら信州愛」を開催しました。若手職員を中心に50名が出席し、小平さんのこれまでの経験を基にした貴重なお話を聴講しました。



写真や動画をしながら講演する小平さん



聴講した若手職員と記念撮影

長門牧場で 酪農理解醸成活動を実施

5月5日(金)こどもの日に併せて、長和町にある長門牧場で、JA全農長野畜産酪農部による「酪農理解醸成活動」を実施しました。



ももちゃんに乗り笑顔のお子さん

飼料・燃料等のコスト増高による厳しい酪農情勢を乗り切るため信州産牛乳の消費拡大を目的として、「現状の酪農情勢」「模型牛での搾乳体験」「ミルク等の酪農消費拡大グッズの配布」を行いました。

消費者の皆様からは、「模型牛だから子供も安心して搾乳体験ができた」等の感想をいただき、模型牛の「ももちゃん」も活躍で多くの子供を背に乗せ、大好評で終了しました。

この活動とおして、消費者の皆様、「安心・安全の信州産牛乳」を理解していただき、今後も消費拡大に努めて参ります。

県スポーツ協会に 長野米などを寄贈

JA全農長野は、県内青少年スポーツ選手の強化に役立ててもらおうと、長野県産「コシヒカリ」などを(公財)長野県スポーツ協会に寄贈しました。



撮影に応じる林理事長(左)と長谷川副本部長(右)

寄贈した県産「コシヒカリ」3トン、「信州まるごとりんご」ジュース(160g)3000本、「wow!!」インド風チキンカレー味なめ苺1500個

は、県スポーツ協会をとおして、全国大会をはじめ各種大会で活躍している県内のスポーツ団体に届けられます。

4月25日(火)の寄贈式で、全農長野の長谷川孝治副本部長は「県内青少年スポーツ選手の強化に役立ててほしい」と目録を手渡すと、林泰章理事長は「5年後の第82回国民スポーツ大会に向けて、選手たちは一層練習に励んでいる。県内スポーツの強化に努められるよう、有効活用したい」と感謝の気持ちを述べました。

1999年度から始まったこの取り組みは、今年で25回目となりました。

新採用職員紹介

令和5年度の新採用職員を順次ご紹介します

管理部

経理課

よしかわ とし き
吉川 俊輝



簿記の勉強、頑張っています！

はじめまして、管理部経理課の吉川俊輝です。

出身は飯田市で、実家が農家のため、新鮮な食材をいっぱい食べて育ちました。趣味は、バドミントン・サイクリング・音楽鑑賞などで、体を動かすことが大好きです。

社会人として働き始めて、わからないことや不安もたくさんありますが、チャレンジ精神を大切にして日々の業務に取り組んでいきたいです。

よろしくお願いいたします。

生産振興部

生産振興課

さとひろ き
佐鳥 広樹



初めてピーマンの定植をしました！

はじめまして、生産振興課の佐鳥広樹と申します。

出身は長野市で、信州の自然豊かな地で過ごしてきました。好きな食べ物は地元川中島の桃です。

趣味はプロ野球観戦とサウナ、特技はスキーです。現在は新しい趣味を見つけることを意識して生活しています。

これまで農業に関わる機会がほとんど無かったので、新鮮な気持ちで業務に励んでおります。まだまだ至らない点が山ほどありますが、初心を忘れずに一日も早く皆様のお力になれるよう頑張っています。

よろしくお願いいたします。

生産販売部

米穀課

にしざわ あ ゆ
西澤 亜優



お米の倉庫に行きました

はじめまして、米穀課の西澤亜優と申します。出身は長野県茅野市です。趣味は舞台の観劇や配信を見ることなどたくさんあります。

大学進学で一度長野を離れましたが、それにより長野の良さを認識し、就職を機に戻ってまいりました。田畑が広がり山々や自然が美しいこの長野で働いていけることをうれしく思っています。また、何よりも組合員の皆様と長野県の農業のことを考えて働いていきますので、よろしくお願いいたします。

JA全農長野の事業現況▶

令和5年度4月末部門別実績表

(単位：百万円、%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
生産振興課		0	0	0
野菜種苗センター		32	78	93
生産振興部計		32	78	62
米	穀	886	83	93
果実花き		258	111	117
野菜きのこ		1,665	88	114
営業		318	85	110
生産販売部計		3,126	88	107
包装資材		421	92	105
生産資材		1,638	105	102
農業機械		629	111	103
施設住宅		552	294	277
生産購買部計		3,241	117	115
畜産酪農		2,362	102	96
三岳牧場		34	160	147
SPF繁殖センター		21	82	78
八ヶ岳牧場		19	98	120
畜産酪農部計		2,435	102	97
燃料・ホームエネルギー		2,156	96	94
S S 協同経営		696	127	101
生活		733	116	103
生活部計		3,585	104	97
長野県本部計		12,420	102	104

(内部販売高含む)

6月のラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
6/28(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶり内 「暮らしの応援団」	生活課

グリーンレーダーの ツイッターを始めました

JA全農長野
【公式】グリーンレーダー

@ja_greenradar



今月のおすすめレシピ

長野県産野菜ときのこ
アンケートキャンペーン第1弾レシピ

野菜ときのこの 簡単ガーリック混ぜご飯



■材料(2人分)

- ・レタスマックス *1..... 100g
- ・アスパラガス..... 2本
- ・セルリー..... 1/2本 (50g)
- ・きのこミックス *2..... 150g
- ・にんにく..... 1片
- ・サラダ油..... 大さじ1
- 【A】
- ・醤油..... 大さじ1
- ・みりん..... 大さじ1/2
- ・鶏ガラスープの素... 小さじ2
- ・黒こしょう..... 少々
- ・バター..... 5g
- ・ご飯..... 250g

■作り方

- ①アスパラガスは斜め切り、セルリーは薄切り、にんにくはみじん切りにする。
- ②サラダ油でにんにくとアスパラガス、セルリー、きのこミックスを入れて炒め、しんなりしたらAで調味する。
- ③温かいご飯に②とレタスマックス、バターを混ぜる。

便利なmyカット野菜・きのこ

- *1レタスマックス...レタス類を4~5センチ角に切り、混ぜたもの。水洗いして、水気を切ってからカットし、キッチンペーパーを敷いた容器で冷蔵保存(保存期間目安:3~4日)
- *2きのこミックス...石づきを切り、食べやすくほぐして混ぜたもの。洗わず、食べやすい大きさにカットし、ジッパーバッグで冷凍保存(保存期間目安:1カ月)

編集後記

はじめに、4月10日および25日に発生した凍霜害に遭われた農家・組合員の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。今後の栽培管理や相談など、被害を最小限に留めるようJAグループとしてできる限りの取り組みをすすめて参ります。

県内各地で田植えが順調にすすんでいます。田植えのタイミングは、安曇野で4月下旬からスタートし、善光寺平では6月上旬までと地域差があります。県内各地で稲の生育の違いを通じ、信州の素晴らしい田園と里山の風景を楽しんでいただければと思います。

さて、4月に開催された先進7カ国農業大臣会合で「宮崎アクション」が採択され、食料安全保障に関する国際的意識の高まりが注目されました。アフターコロナによる国内消費拡大と経済復興機運の高まりに対し、ウクライナ侵攻等に端を発する世界的資源争奪による資材高騰問題の継続は、コロナ禍からの脱却に冷や水を浴びせる可能性が高く予断を許さない状況にあります。

「JA全農長野」も、引き続き「食料安保の強化」「再生産に配慮した適正な価格形成の仕組みの具体化」「農業の持続的な発展」を目指し、JA・組合員・利用者に日々貢献することを目指して参ります。

(一)

ごつつあんです 倭州の農畜産物



JA全農長野は、長野県の農畜産物をとおして御嶽海関を応援しています

グリーンリーダー6月号（毎月発行） 2023年5月20日発行 第529号
発行／JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 発行人／島田武司 印刷／PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>

インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

